

2021 年度自己評価・関係者評価

1. 教育理念・教育目標

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神を第一として共に生きる真実の人間形成 ・ 聖句『光の子として歩みなさい』（エフェソの信徒への手紙 5 章 8 節） <p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神さまに愛され守られていることを知る ・ 自分らしくのびのびと表現する ・ 自分のこともみんなのことも大切に思う
--

2. 2021 年度の重点目標

	<ul style="list-style-type: none"> ① 神さまに愛され守られていることを知り、安心して過ごす。 ② 自分の好きな遊びを見つけて友だちや保育者とじっくり遊び込む。 ③ 個々の子どもたちの成長の課題について保育者が共通理解を持って関わることのできる体制を整える。
--	---

3. 取り組み

	<ul style="list-style-type: none"> ④ 正しい情報に基づき速やかで適切な判断を行い、子どもと職員の健康と安全を守ると共に、必要な情報を保護者に発信し、連携と相互理解を深める。 ⑤ 時代や状況の変化に適切に対応し、行政からの要望・地域との連携など広い視野に立った運営を行う。
--	---

と評価

区分	評価項目・内容	評価	備考
教育課程・指導計画	園の建学精神や教育目標を理解しているか。	A	認定こども園準備で教育目標に立ち返る機会が多くあり、理解が深まった。
	幼稚園教育要領を理解し、子どもの実態に即した教育課程の編成を行っているか。	A	認定こども園準備で教育・保育要領を学び、改めてこれまでの理解の不十分さに気付くことができた。
	目標は前年度の反省を生かしているか。	A	反省に基づいての目標を立てたが教師間でその理解をより深めるまでには至らなかった。
	教材や教具を適切に活用できているか。	A	仮園舎生活の中でも計画的に教具を準備・配置して活用できた。
	目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	A	前年度末に保護者に要望を ICT システムで出してもらったところ、今まで以上に文章での回答が多く寄せら

			れ、参考に出来た。
保育内容・子どもへの対応	個々の子どもたちの成長の課題について保育者間で共通理解をもつことができているか。	A	日々の保育の振り返りは充実していた。クラス毎に担当教師による課題の確認を毎月行うことができた。
	子どもが神と人ともに愛され守られていることを知り、安心して過ごせているか。	A	3歳児が泣いている子に対して「神さまがいるから大丈夫だよ」と声をかける等、嬉しい姿も見られた。
	健康で安全な保育のために必要な生活習慣を、子どもと共に確認しながら指導できているか。	B	仮園舎では手洗い場が個別だったために手洗い指導が十分には出来なかった。安全の確認は丁寧に行えた。
	子どもの思いや興味・関心を共有して、じっくりと遊びを深めているか。	A	継続課題として取り組んでいる。仮園舎生活で不十分な点もあったが共通の視点で取り組むことができた。
	他のクラスの子とも関わられるように遊びの形態などを工夫しているか。	A	園外活動や行事活動などでの交流を多く持てた。仮園舎の特徴として廊下で仕切られていない事の良さもあり、日常生活での交流も多かった。
	行事の計画や取り組みは適切であるか。	A	コロナの影響で臨時休園による行事延期や縮小はあったものの、できる形を模索し、「泊まらないけどお泊り会」の「水族館作り」など新しい形に意欲的に取り組むことができた。
	特別な支援を要する子どもに対して職員全員が理解し、専門機関とも連携して対応しているか。	A	その時々状況に合わせた支援の在り方を職員間で模索しながら共有し専門機関との連携もできていた。
教師としての資質・能力・研修	保育や子どもの様子などについて保護者にわかりやすく伝え、信頼を得るように努めているか。	A	それぞれの立場で保護者と向かい合い、話しやすい雰囲気の中で対応できていた。
	専門知識や技能を高めるために積極的に研修会に参加しているか。	A	オンライン・オンデマンド研修の普及により今まで以上に質の高い研修を受ける事ができた。
	職員間の業務分担を適切に行い、個人の能力を活かしながら協力体制を作っているか。	A	個人の能力を活かすだけでなく、新しい分野に挑戦して自ら学んだ者がいる等、刺激し合いながら協力体制ができた。
	健康維持に努めているか	A	健康診断の結果や体調の変化に合わせて、積極的に治療する等、お互いの様子にも配慮しつつ健康維持に努

			めることができた。
	仕事上の問題や悩みは早期に報告、相談して解決できているか。又その体制ができているか。	A	体制整備は不十分ながら、職員間の連携により、必要な休職期間を取るなどして対応できた。
保護者の対応	共に子どもの成長を喜び合うことができるように理解を深める対応ができているか。	A	毎月個別に写真付きの文章で成長の様子を保護者に知らせ、返事をいただきながら共通理解に努めている。
	保護者の悩みや相談に対応できているか。	A	悩みのある時にはまず話を聞くことを一番大切に対応に努めている。話しやすい雰囲気は出来ていると思われる。
安全管理	仮園舎での保育の為に必要な安全対策ができているか。	A	教会建築の際に、セキュリティシステム導入や、階段やドアの形状など安全のために必要なことを申し入れ、協力していただいた。
	災害から身を守るために必要な訓練と防災教育ができているか。	A	毎月の避難訓練が定着した他、新しい環境になった事で危険を自ら発見してもらう試みも取り入れた。
	仮園舎の中で不審者への対応が適切に行われているか。	B	入り口が1か所になった事で対応し易かった。職員の訓練はまだ不十分なので今後も深めていきたい。
	建築工事に伴い必要な安全対策を講じているか。	A	建築施工業者が常に必要な場所に人を配置してくれて、安全に行うことができている。
	家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	A	関係機関との連携はできるようになりつつある。地域との協力体制、特に安全対策については今後の課題。
環境	新型コロナウイルス感染症対策に必要な環境を整えているか。	A	必要な備品の購入や午前保育の導入などできる限りの対策に取り組んだ。
	園庭のない生活の中で虫などの生き物や植物の成長、季節の変化などに子どもが親しみ生活や遊びに行かせるような工夫ができているか。	A	近隣の公園に例年以上に出かける事での発見も多かった。親子遠足で自然の中にあるものを親子で見つけて楽しむ活動を取り入れる等、今までにない活動ができた。
部外	地域の中で幼・小・保が積極的に連携	B	コロナにより実質的な小学校接続の

	し、必要な情報交換や交流活動ができているか。		ための交流の機会を作る事が難しかった。認定こども園準備のために近隣の保育園・子ども園の見学や相談に乗っていただく機会も多く、大変親切な対応をいただいた。
	地域の生活に触れた活動ができているか。	B	公園で遊ぶ親子との会話は例年以上に多かった。公園ゴミ拾いの活動は継続できた。地域交流は更なる今後の課題として取り組みたい。
子育て支援	地域に住む親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定ができているか。	B	コロナの状況が落ち着いた10月に集中して「親子体操教室」「親子わらべうた教室」を実施し、喜ばれた。
	医療機関その他の専門機関との連携を図り、保護者に必要な情報を提供できているか。	A	個別に連携が必要な医療機関とは保護者を介しての連携ができた。ICTを活用して札幌市や道からの情報提供は速やかにできた。
運営その他	円滑な業務のためにICT活用を有効に活用できているか。	A	利用の幅を広げるための研修を受けるなどして積極利用に努めている。
	認定こども園への移行に向けて資金計画や運営計画などの準備ができているか。	A	資金計画は理事会が、運営計画は現場と理事会双方向のやり取りによって進められている。
	認定こども園への移行に向けた保育の学びと共通理解ができているか。	A	コロナ対応に追われ、不十分な点は否めないが、相当な努力を重ねている。
	会議の回数、時間、進め方は適切であるか。	B	職員会議の持ち方を工夫し、効率よく必要なことを話せるよう事前準備に努めている。
	会議や研修の内容を適切に記録、集積し運営に正しく反映させているか。	B	学んだ内容を他の職員に伝える事で一層学びを深めるような工夫をしていきたい。必要なことを簡潔に記録するスキルの向上と次に生かす努力は今後の課題として取り組みたい。

4. 今後取り組むべき課題

- ① 認定こども園開園に向けて様々な工夫を重ね必要な人材を確保できたことは何よりも喜ばしい事である。保育教諭として新卒採用や経験のある常勤職員に加え、パート職

員も加わる事となった。又、自園調理による給食提供のための人材も確保することができた。職員数が急に増える事で職員間の連携の在り方が難しくなると予想される。会議や研修の在り方だけでなく日常の様々な場面で、お互いの気づきを伝え、尊重し合い、共に助け合いながら保育の目標に向かっていくための具体的な対応に取り組む必要がある。

- ② 施設の形態が変わっても、「キリスト教の精神に基づいて『共に生きる喜び』を伝える。一人ひとりを大切に心身を育む。」という保育の理念を見失うことがあってはならない。互いの経験や知識や技能を出し合いながら、目標をもって共に学び、職員自身が子どもと共に育つという姿勢を持つことができるようにしていきたい。そのため会議や主体的に参加できるような園内研修の充実を図りたい。
- ③ 0歳からの保育を開始するにあたり、何よりも安全が確保されなければならない。給食の提供や新しい環境の中に不備な点がないよう、継続的に細心の注意を払いつつ緊張感を保って歩むことができるよう全体を整える必要がある。
- ④ 自己評価の低さが見られる地域との連携について、様々な視点から見直し、コロナ禍にあっても認定こども園としての子育て支援の役割を十分に担うことができるよう、具体的に考え実行していきたい。
- ⑤ 新型コロナウイルスへの対応について今後も状況に合わせて対応できるよう柔軟且つ迅速な対応が求められている。
- ⑥ 様々に変化する社会情勢を把握して十分対応できるよう役員、職員、関係者の協力を一層強めていきたい。

5. 関係者評価委員会の総合的な評価

結果	評価の理由
----	-------

A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の様子から、大人からの指示がなくても子どもなりに判断して状況に合わせた行動をとる姿が多く見られた。教師たちの大きな声や耳障りな表現もなく、子ども達の穏やかな様子を見ていても全体的に心地よい印象であった。丁寧な保育が展開されていることがよく伝わってきた。教育課程をしっかりと見直して保育の中心を大切にしていることも評価できる。 ・ ジェンダーの問題が今後取り組むべき課題となってくる。子ども達の様子を見てみると、男女が自然と分かれて遊んだり座ったりしており、お雛様作りの活動なども、ジェンダーの視点からは疑問点もある。個々がありのままに尊重される社会の実現に向けて、人格形成の基礎となる大切な時期の経験が偏ったものにならないよう、より広い見地に立って一つひとつの保育の有様を常に捉え直しながら歩みを進めていただきたい。 ・ 自己評価の中で、地域との触れ合いや子育て支援の評価が低い点が気になる。「園と家庭」の繋がりだけでなく、園の活動を通して「家庭と家庭」を繋ぐ役割を果たしていることも見逃してはならない。又、地域と一口に言っても様々な括りがある。近隣住民には幼稚園がどのような事を行っているのかは分かりづらい。例えば町内会の回覧板に幼稚園の活動を知らせるための印刷物を入れてもらったり、ボランティア活動として保育に参加してもらったりしながら、地域に根差すこども園としての立ち位置を築いていけるよう、できるところから工夫して取り組んでいけたら良いと思う。 ・ 70年の歴史を経て幼稚園から認定こども園へと形は移っていくが、これまでに培ってきた土台の上に立って、変えるべきものと変えてはならないものを見定めながら、少子化の時代に相応しい在り方を模索しつつ、教会幼稚園らしい思いやりと優しさをもって歩んで行けたら良いと思う。
---	--

(幼稚園関係者委員会：2022年2月14日実施)